

えない物全てを天地の働き、恵みと思いお礼を申し上げあげなければと思います。

○ 金光教教典に地震のこと

についての記述があります。「お知らせ事覚帳」(明治五年二月六日お知らせ)

『二月六日暮れ六つ、地震いり。天地乃神氣ざわり、世の狂いに相成り候』

また、理解Ⅲ「御道案内」(白神新一郎著)には

『新たに家蔵堅固に建てしも一度に崩し、微塵になしたまひ。日天四様お氣障りは早魃、暴風、月天四様お氣障りは暴風、洪水、金神様お氣障りは地震なり。この三つの難は人力をもつて防ぐこと

あたわず。世界中を震動なさしめ、一時にくつがえしたまうほどのことなり。また、おかげの大ききこともかくのごとし』

とありますが、この氣障りについては金光教用語辞典には、

「神の怒りを表す言葉。教典では人の気分については用いられず、神の心、神の願いに沿わない人間の心や行為に対する神の怒り、または、もどかしい思いを指す。直接的な怒りとして表現される場合に加えて、氣障りによってさまざま難儀が引き起こされることへの注意を促す場合もある」とあります。

教典には「天地乃神氣障り」、「金神お氣障り」とあります。この氣障りをどう我々人間は受け止めればいいのか

でしょうか。

用語辞典から一つ考えられるのは「神の願いに沿わない人間の心や行為に対する神の怒り、または、もどかしい思いを指す」とあるように、神様は人間のあり方、生き方に問題があり、地震とは別なこととして、改めて人間中心の生き方について警告しているのではないかと。また逆に、御道案内の「おかげの大ききこともかくのごとし」とあるように、天地の働きがあればこそ、我々人間に大きな恵みを与えてくださっています。

たとえば地殻は常に動いている。熱を持つ。熱があれば温泉もある、地熱発電もある。作物も育つ。地が動けば地震になり津波も起こる。また元に戻る。恩恵もあれば地変(弊害)もあるのではない

でしょうか。おかげの中に生かされているということをもたえなければいけないと思います。さらに災害に亡くなられた霊様の立ちゆきを願ひ、早期の復興を願ひいていくこと、また人の助かりのためできることから始めるが大切だと思います。

○ 参考

古代ギリシアでは、自然哲学者アナクシメネスが土が大地の窪みにずり落ちることが原因だと考えた。

古代エジプトでは、大地の神ゲブの笑い、またはヌト(古代エジプト神話の天空の女神)と離れた悲しみが地震をおこすという。このように色々と言説があるようです。

教会掲示板

教会からあれこれ

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五四―四一―三五一
〇一五四―四一―三六一
FAX

『災害の連続』

今年は一月の信越方面の大雪から始まった。JRの列車、国道の車も立ち往生、1月11日の朝から77センチの豪雪で始まり、12日午後になって落ち着いたものもの雪が降り続き、13日、14日と続くセンター試験も受験生が受験会場に行けるかどうか、会場によっては、受験時間をずらして実施したニュースもあった。

局的にはいろいろあったものの、春の季節は穏やかに過ごせたものの台風5〜8号や梅雨前線の影響で、

5月20日頃から北九州に大雨が続き、高知県馬路村では3日間で1091ミリの大雨を降らせた。

6月29日には関東甲信越で梅雨明けを発表したが、台風7号が日本海を通過したタイミングで、太平洋高気圧は南東に移動。このため梅雨前線が再び南下し広範囲に雨を降らせ、関東甲信地方でも6日は雨が降り、気象庁は「戻り梅雨」だと説明する。この豪雨の影響は、愛媛ではダムの緊急放流がなされ、「晴れの地」と言われる岡山県の真備地方に大雨をもたらした。

この台風豪雨・暴風が去ると猛暑が続き、普通の夏の空が恋しいとまで書き立てる新聞もあった。

台風12号の動きは関西から広島方向に、つまり東か

ら西方向に進路を進め、西日本豪雨災害の方向に進み、安芸の宮島では、平清盛の時代から続く管弦祭という神聖を取りやめた。

連続で台風が続き、何号の台風がどうであったか思いつけないが、台風21号の影響は、9府県で特別警報が出るという範囲の広さもさることながら、関西地方では屋根のトタンはもとより、駐車中の車を吹き飛ばし、北海道の北で温帯性低気圧に変わった。

21号が北海道を通過した翌日の朝3時には、胆振東部地震と名付けられた震度7の地震が起き、北海道中がブラックアウトになった。

地震そのものは、釧路ではどこかで地震が起きたかなという程度で夢うつうつだったが、停電は別海の略

農地帯の牛を襲っていた。

釧路の教会近くは、夜の8時頃電気が回復したが、全市的には3日か4日ほどの時がかかったようだ。翌日のテレビであったか、山林の美しい山々の山津波には驚いた。幾重にも重なる山々の山の頂きだけを残し、山裾は赤茶けた山肌をむき出しにしていた。その土砂は、山裾の家々はみな押し流されていった。

その後、次々と台風が釧路に向かって来るが、みな太平洋の東南に流されたようで、今のところは台風にも、地震にも侵されていない。

そんなところから復興を祈っている。

(江郷)

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七―二四―七四七四
FAX 〇一五七―二四―七四七四

今から二十三年前の一九九五年、一月十七日、私はご本部の朝の教話を奉仕しておりました。その二年前の一九九三年の七月十二日に北海道南西沖地震があり奥尻島が壊滅的な被害を受けましたので、ご本部での教話はその地震を題材に「覚悟して生きる」ということを話しましたが、話し終えてまもなく、びっくりするほどの揺れが会堂を襲いました。

の始まりがこの二つでした。その後のご承知の通り、次々と毎年のように大きな地震以外にも自然の脅威が猛威を振るい、甚大な被害をもたらし復旧、復興が追いつかないほどです。その被害はもはや他人事では済まされないと思われるほど全国各地に及ぶようになり、覚悟して生きなければならぬと話したことが実感として身に迫ります。

生きる覚悟、この覚悟の覚も悟も「さとり」という意味がありますが、何を悟るのかといえ、生きていく価値を知る、真実の生き方を知る等々、そう話したことを思い出します。この後どんなことが起こるのか、明日に何があるのかかわりようもありませんが、被害に遭われ亡くなった人々の

無念、その遺族の悲しみ、それらの思いと共に信心によつて本当の覚悟を身につけて生きていかなければならないことは確かです。もちろん防災の準備も怠らないように。

(矢代)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二一
TEL 〇一五七―二一―三三二二
FAX 〇一五七―二一―四二二三

昔から怖いモノの代表といえ「地震・雷・火事・親父」です。

今の世の中「親父」の威厳は地に落ち見る影もありませんが、地震に代表される自然災害の脅威は、どれだけ時代が変わろうとも科学技術が進歩しようとも変

わりません(ちなみに親父とは「お・お・や・ま・じ」のこと「大風」、「台風」を指すという俗説もありますがあくまでも俗説です)。

先日胆振東部地震では厚真、安平、むかわを中心とする多くの方が亡くなられ、土砂崩れや液状化など各地で大きな被害発生しました。しかもこの地震によつて全道規模の大停電が発生、震源から遠く離れた各地でも大きな影響を受けたのでした。

酪農や漁業関係者はじめ生鮮品を扱う方々、工場が停止してしまつた方々などこの大停電による損失は大きかつたのですが、併せて私たち一般人の暮らしにも大きな影響がありました。

電灯がつかない、テレビが見られない、冷蔵庫が動か

ない、IHコンロが使えない、ボイラーが動かないなどなど。

なかでも一番困ったのは携帯電話が充電できなかつたことかもしれません。市役所や携帯ショップなど充電スポットに人が群がる姿が繰り返しニュースで放映されてきました。

そして大変だったのがほとんどどの信号機が止まってしまったこと。北海道は車社会です。昼夜を問わずそれなりの数の車が街中を走ります。それが信号のない状況では…。バスや運送業者は信号が動かないと危険ということで早々に運行を止めてしまいました。さらに鉄道も電気がないので運行停止。

結局、家では情報が入らず連絡も取れず、街に携帯

電話の充電に行こうにも、買い物に行こうにも道路は信号が真っ暗、ハラハラしながらお店についても配送がないから商品もなく、街で暮らしているながら孤立したような状況になってしまったのでした。

いかに私たちの暮らしが「電気に支えられているか」がよくわかりました。

電気は人間が少しでも便利な暮らしをおくるために発明し発展させてきたものです。

おかげでとても便利な生活をさせてもらっていますが、ひとたび電気が止まってしまうと、便利な生活どころか生活そのものができなくなってしまう可能性が示されたわけです。

電気に支えられているつもりが、「電気に支配されて

いた」わけです。

そうなる今風の怖いものと言え「地震・雷・火事・停電」でしょうか。

(玉置)

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―三三六八三五
FAX 〇一五五―三三六八三五

今年の旭岳の初冠雪は、9月20日、平年より5日早く、昨年より10日早い観測。甲府地方気象台は9月26日、富士山の初冠雪を観測しました。平年より4日早く、昨年より27日早い観測です。9月の観測は6年ぶりです。温暖化といわれていますが初冠雪は例年より早いようです。天地のことはわからないです。

昨年は台風の影響もあり

アンズ、銀杏の実がならなかったことを「光報」に書きました。今年是有り難しいことで多くはなりません、杏の実もなり、銀杏もなりました。

7月中旬、落ちないようにアンズの木に登り、高いところになったアンズに傷や割れないように網に包みます。朱色になったアンズをにがり洗い、3日間ほど塩で荒漬けた後本漬けます。本漬はアンズ、砂糖、酢、揉み紫蘇の順に重ねて1ヶ月寝かせます。砂糖の量はアンズの重さの3分の1強です。

アンズは梅より一回り種も大きいので食べ応えがあります。大祭には少し塩辛いですが提供できると思います。

また銀杏は10月中旬に、

また木に登り振り落とします。銀杏は非常に臭い(におい)がきついで樽に水を張り、その中に1週間ほど浸すと皮が柔らかくなり実が取り出しやすくなります。そのときはにはマスクと軍手を用意しかぶれないようにします。

実だけを網の上にのせて天日干しをまた1週間ほどします。完全に乾ききつたところで杏割ペンチで一つづつ割ります。割った実はお湯で潤かし、薄皮をとって塩ゆでします。緑色に変わ

りおいしい銀杏ができあがりです。大祭には銀杏ご飯を用意したいと思います。

また天地の働き、恵みを今年もありがたくいただきましたと思います。

今頃気がつくのも変ですが、アンスの漢字は「杏」で、ギンナンは「銀杏」と書き

ます。どうして同じ「杏」を書くかというところのようなことでした。

イチヨウの実の形が杏(あんず)に似ていて、殻の色が白銀であることから「銀杏(ぎんあん)」と呼ばれ、それが「ぎんなん」となりました。

茶碗蒸しに入っていることも多い、あの楕円球型の実ですね。ですから「銀杏」は「いちよう」とも「ぎんなん」とも読むことができますが、主に木や葉を指すときは「銀杏(いちよう)」、実を指すときは「銀杏(ぎんなん)」と使い分けたりします。

(田中)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二四三三三九五四
FAX 〇一五二四三三三九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

「ブラックアウト」、ニュースで初めて耳にした時、その呼称に納得しました。北国の猛吹雪によるホワイトアウトもあります。なるほどブラックアウトかと。

三日間のブラックアウトですが、そのたった三日間の停電でこうも混乱するものなのかと、今更ながら大な地域全てが停電することの恐ろしさを感じました。私たちがいかに電気が無いと暮らしていけないか、いかに電気に囲まれて暮らし

ているかが分かります。

胆振東部地震発生より二十日以上が経って、スーパーやコンビニも品物不足が解消されて来ましたが、採る(捕る)ことは出来ても、工場が稼働しないので行き場を無くしてしまつた一次産業生産品など、すべてがどうなることかと一時は先行きの見えない大きな不安が広がりました。

三日後にはほぼ全域で電気が復旧しましたが、その混乱はすいぶんと尾を引き、今なお観光業などでは、風評被害により全道各地の温泉場や観光地でキャンセルが相次ぎ大打撃を蒙っています。北海道の経済において過去に無いほどの損失となつていようです。そしてテレビでは、計画停電をせずに済むように、毎日節

電が呼びかけられています。みなが電気を無駄にしないうように節電に心掛ける様になりました。スーパ―やホームセンター、コンビニなど企業も節電に取り組んでいます。しかしながら、北海道の電力供給が以前の様に元通りになった時、皆の節電意識はどうなるでしょう。

また、こうも考えます。このブラツクアウトが一週間も二週間も続いたとき、北国の夜は人間の形をした魍魎魍魎が跋扈するような著しい治安の悪化を招いていたことでしょう。過去の大地震において被災地での暗闇（人の目が行き届かない状態）が犯罪を増長させたことは有名です。

こうした非常時においても人の心や冷静さを失わな

いように、私たち信仰を持つものは、日々教祖様のご信心を我が身わが心に深く刻み、信心の稽古に励まねばと思わされます。

電気やエネルギーが豊富にあるが無かるうが、全てのもは天地の親神様の御物、あだやおろそかに人間の勝手気ままに使ってはならない。常日頃から感謝を土台にわずかでも粗末にならないよう使わせて頂くことが大事です。

その場所が明るみであるうと無かるうと、その時に人の目があるうとあるうと無かるうと、私たちの立ち居振る舞いはその全てを神様をご覧になつているので、神様の悲しまれるような事はできません、逆に喜ばれるあり方を求めてまいりたいと思ひます。

つまり世の中がどんなに変わろうと、それに振り回されることの無い普遍的な価値観をわが道の信心をもとに持ち続けることが大切だということでは。

今月、当教会においても生神金光大神大祭が仕えられます。この御大祭を通して、信仰に基づく価値観をいよいよしっかりと心に植え付け、御大祭の大きな中身とさせて頂き、ご参拝の皆さんと共に大みかげを蒙りたいと念じています。

(菊川)

神人あいよかけよの生活運動

願 い

御取次を願ひ頂き

神のおかげにめざめ

お礼と喜びの生活を進め

神心となつて人を 祈り

神人の道をあらわそう

助け 導き

平成三十年度 道東地区各教会秋の大祭日程

釧路教会 布教 110年記念祭

10月21日(日)

北見教会 11月 3日(祝)

十勝教会 11月18日(日)

帯広教会 11月 4日(日)

網走教会 10月28日(日)

滝上教会 11月11日(日)

行事報告

▼平成三十年度 道東地区教会連合会交流会・研修会
・交流会

日時 平成30年7月28日(土) 午後2時から
場所 釧路市市民防災センター、旧太平洋炭礦展示館
釧路教会(懇親会)

内容 防災体験(地震、火災避難、消火器、AEDな
どの体験)、旧太平洋炭礦展示館見学、懇親会

参加者 27名

・研修会「神人あいよかけよの生活運動」道東地区集会

日時 平成30年7月29日(日) 9時から正午まで
場所 釧路教会

内容

「神様に心に向けて」・神様に手紙を書こう

天地金乃神様は決して特別な神様ではなく、特別な願いだけを聞き届けてくださる神様でもありません。常に私たちに寄り添い、私たちと共にいてくださる身近な神様です。家族や友人に手紙を書くように神様に手紙を書いてみることで、ふだん私たちはどれだけ神様を身近に感じているのか確認してみました。

参加者 26名

▼平成三十年度 道東地区教会連合会役員会

日時 平成30年9月30日(日)10時30分
場所 北見教会

内容 平成三十年度連合会活動・会計について報告

平成三十一年度連合会活動計画案・予算案
北海道教会の行事等について

出席者 6名

▼全国信徒会 信徒会全国大会IN北海道

日時 平成30年7月14日(土)14時から
場所 ホテル・ノースシティ(札幌市)

内容 神人を現しお道を伝える

講話(布教部長)と体験発表

参加者 303名(道東地区からも多数参加)

▼金光教北海道教区少年少女キャンプ

「みどりのひろば」

日時 平成30年8月3日(金)～5日(日)
場所 旭川市江丹別若者の郷

内容 「なんでもやってみよう」

火起こし、飯盒炊飯、食材争奪
ゲームなど

参加者 61名(道東地区から中学生〆名、小学

生4名、大人10名参加)



道東地区教会連合会ホームページ
(PC用)

<http://kontoka.webcrow.jp/doto>